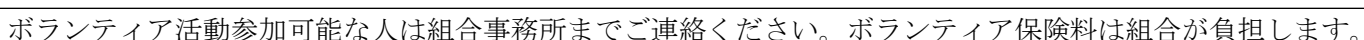


台風被害を命と財産守る教訓に 被災組合員が語る「あの時」の判断



防災・減災対策進めるうえでも ダンプ・建設労働者の担い手を

ダンプ支部第39回定期大会

ダンプ支部は十一月一日、佐野市内で第39回定期大会を組合員70名が参加し開きました。

災害対策インフラ整備の強化を求めたい。そのためにも対策の要となるダンプ・建設労働者の労働条件改善は国民的課題」とし、担い手が育つ環境をつくる運動に取り組むことを提案しました。

工藤委員長はあいさつのなかで「高齢者の交通事故が社会問題になっているいま、組合もこの問題に向き合わざるを得ない」と交通事故対策の重要性を訴

健康管理と事故防止を学習

大会では特別講演として損保社員による安

全講習と交通事故被害者の訴えをまとめたDVDを視聴しました。講習では、健康管理と運転の関係について学習しました。DVDでは、ダンプの左折巻き込み事故により死亡し

た被害者遺族の悲痛な訴えが映し出され、参加者は真剣にスクリーンを見つめました。

消費税5%に反対 インボイス絶対反対

10月から強行された消費税率の引き上げにともなう来年の確定申告の注意点や、売上に関係なく消費税申告を強いられることとなる「インボイス制度」の問題点なども学習しました。

消費税率の引き上げにより来年はさらに景気の悪化が懸念されています。

「すべての業務はお客様重視」 三菱ふそうの姿勢を問う

三菱ふそうは十一月から親会社ダイムラー社の組織再編により新体制に移行します。

マーティン会長は声明で「すべての業務は、お客様重視で行います。お客様の成功が当社の成功となります」と述べています。

組合員Kさん、Tさんからはディーラーでの修理の対応について、相談が寄せられました。部品の納品に一月以上待たされています。いずれも発売からまだ三年、四年の車両であり、部品の供給システムを疑わざるを得ません。「これじゃ仕事にならないよ。休業補償をしてもらいたい」と訴えます。

Aさんの場合、コンピュータの不具合により、何度も入庫を強いられいまだ原因不明の状態です。

あるディーラー関係者は語ります。「いまの状況は異常です。メーカーは現場の実態を知らない。コンピュータ化によって町場の修理



先月組合員の運転する三菱ふそうが運転中全焼。組合員は脱出して無事。原因不明。配線系は要チェック。

工場では対応できない車両が増えディーラーに修理が集中している。ところがサービスは人手不足で慢性的な過密状態。働き方改革で長時間残業もできない。今年発売の「スーパードレイト」は自動運転レベル2の機能を持っているが、さらに修理が難しくなるのでは...」程度の差こそあれ、他のトラックメーカーも同様の問題を抱えています。

安倍晋三事務所から「桜を見る会」の案内状が来ない。まだ「功績」が足りないか。



台風被害を踏まえて、全労済職員から自然災害への備えについて資料説明をしていただきました。

佐野ラーメン放浪記【26】

有名店も台風被害に 再建めざして奮闘中



浸水被害にあった老舗「山銀」。被災者支援のため3日間100食限定100円ラーメンを提供。エライ！

台風19号によって佐野ラーメン店も10軒近くが被災しました。多くの店舗が再建をめざして被害直後から泥出しや調理器具の洗浄に奮闘しました。

台風が直撃した日は3連休の初日とあって大量に食材を仕入れていた店舗も多く、なかには2千万円以上の損害も。

「麺屋ようすけ」や「日向屋」といった人気店では常連客も復旧作業を手伝いました。

大会会場の「あくどプラザ」は佐野市の指定避難所です。ところがここは秋山川より低く、避難した組合員は葛生中学校への2次避難を強いられました。避難所のあり方も徹底的に見直す必要があります。